

①課程No.	1
②科目No.	研 1

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数・単位時間数	⑥実践研修項目	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教育実習Ⅰ	必修	2	1, 2, 3, 4, 5, 6	中原郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;テーマ&gt;</p> <p>養成課程で身につけた、学習項目に合わせた教授法や教材の選択、授業を組み立てるための準備などの知識を活かして授業を行う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教壇実習を行うクラスについての十分なコース分析、教材分析により着目すべき点を具体的に設定した上で、明確な目的意識をもって授業を見学することができる。</li><li>・コースの目的に合った授業を実施するための教案作成ができる。</li><li>・養成課程で身につけた知識や技能、態度を活かして授業ができる。</li><li>・自分の授業やクラスメートの授業を客観的に評価することができる。</li><li>・一連の作業を報告書にまとめるにあたり、責任をもって各自の仕事を遂行することができる。</li></ul>				
⑩授業の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまで日本語教員養成課程で学んだ知識を活かし、本学で実際に学ぶ短期留学生のクラスの日本語授業で実習を行う。</li><li>・受講生が自ら実習クラスの雰囲気や日本語力を観察し、授業計画を立て、実施する。</li><li>・模擬授業の前後に少なくとも1回ずつ担当教員による個別の教案指導が実施される。</li><li>・学内の多くの授業を観察し、受講生同士の授業の観察も必須となる。</li><li>・実習終了後は報告書を作成しながら自らの授業を振り返る。</li></ul> <p>※日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続する2コマで開講され、両方履修することが求められる。</p> <p>※受講生が7名以上の場合は、受講生を2つのグループに分けて異なる日本語クラスで教壇実習を行う。2つのグループは2名の担当教員がそれぞれ指導し、7回目から12回目の模擬授業・教壇実習を行う。</p>				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回を含む実践 研修項目番号
1	オリエンテーション（教育実習の目的、位置付け、注意点の説明）、教壇実習担当決め				1
2	過去の実習例分析：過年度の報告書を読んで、教壇実習を行うために必要な教材研究のポイントを理解する。				3
3	教材研究について：授業目標を達成するためにどのような活動を行えばいいか考える。				3
4	教材研究①：前回の授業でまとめた教材研究のポイントに基づいて、教壇実習担当箇所の研究・分析をする。				3
5	授業見学①：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。				2
6	授業見学③：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。				2

7	授業見学の報告，教案検討，模擬授業①：見学した授業についてポイントとした内容と合わせて報告する。作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	2, 4
8	教案検討，模擬授業③：作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	4
9	教案検討，模擬授業⑤：作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	4
10	教壇実習，実習観察②：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
11	教壇実習，実習観察④：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
12	教壇実習，実習観察⑥：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
13	実習振り返り，報告書作成①：教壇実習担当者による内省報告をし，他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
14	実習振り返り，報告書作成③：教壇実習担当者による内省報告をし，他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
15	報告書作成⑤：報告書原稿の最終チェックを行う。	6
⑫使用テキスト		特になし
⑬参考書・参考資料等		必要に応じて授業中に指示する。
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		教壇実習50%（ピア評価20%，教員評価30%），提出物50%（授業観察のポイント5%，授業観察報告（4回分）20%，教材研究のポイント5%，教案・教材15%，教壇実習の振り返り5%）

①課程No.	1
②科目No.	研 2

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数・単位時間数	⑥実践研修項目	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教育実習Ⅱ	必修	2	2, 3, 4, 5, 6	川崎加奈子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;テーマ&gt;</p> <p>養成課程で身につけた、学習項目に合わせた教授法や教材の選択、授業を組み立てるための準備などの知識を活かして授業を行う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教壇実習を行うクラスについての十分なコース分析、教材分析により着目すべき点を具体的に設定した上で、明確な目的意識をもって授業を見学することができる。</li><li>・コースの目的に合った授業を実施するための教案作成ができる。</li><li>・養成課程で身につけた知識や技能、態度を活かして授業ができる。</li><li>・自分の授業やクラスメートの授業を客観的に評価することができる。</li><li>・一連の作業を報告書にまとめるにあたり、責任をもって各自の仕事を遂行することができる。</li></ul>				
⑩授業の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまで日本語教員養成課程で学んだ知識を活かし、本学で実際に学ぶ短期留学生のクラスの日本語授業で実習を行う。</li><li>・受講生が自ら実習クラスの雰囲気や日本語力を観察し、授業計画を立て、実施する。</li><li>・模擬授業の前後に少なくとも1回ずつ担当教員による個別の教案指導が実施される。</li><li>・学内の多くの授業を観察し、受講生同士の授業の観察も必須となる。</li><li>・実習終了後は報告書を作成しながら自らの授業を振り返る。</li></ul> <p>※日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続する2コマで開講され、両方履修することが求められる。</p> <p>※受講生が7名以上の場合は、受講生を2つのグループに分けて異なる日本語クラスで教壇実習を行う。2つのグループは2名の担当教員がそれぞれ指導し、7回目から12回目の模擬授業・教壇実習を行う。</p>				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回を含む実践研修項目番号
1	授業観察のポイント作成：教壇実習を行うクラスを中心に、コースの目的、学習者のバックグラウンドなどに基づいて、どのような点に着目して実際の授業を見学するかまとめる。				2
2	授業研究のポイント作成：担当する教壇実習内容がコース全体のどのような位置付けになるか分析し、1回の授業で学習者が「何ができるようになるか」、言語能力記述文の形式で記述された目標を考える。				3
3	教材研究のポイントについて討議：小グループで教材研究のポイントについて討議し、研究・分析を深める。				3
4	教材研究②：教壇実習担当箇所の研究・分析をし、授業プランを立てる。				3
5	授業見学②：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。				2
6	授業見学④：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。				2

7	教案検討，模擬授業②：作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	4
8	教案検討，模擬授業④：作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	4
9	教案検討，模擬授業⑥：作成した教案に基づいて模擬授業を行い，実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに，教案の修正点を考える。	4
10	教壇実習，実習観察②：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
11	教壇実習，実習観察④：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
12	教壇実習，実習観察⑥：教壇実習担当者は授業を行い，他の受講生は授業観察を行い，LMS内でピア評価を行う。	5
13	実習振り返り，報告書作成②：教壇実習担当者による内省報告をし，他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
14	実習振り返り，報告書作成④：教壇実習担当者による内省報告をし，他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
15	報告書作成⑥：報告書原稿の最終チェックを行い，完成原稿とする。	6
⑫使用テキスト		特になし
⑬参考書・参考資料等		必要に応じて授業中に指示する。
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		教壇実習50%（ピア評価20%，教員評価30%），提出物50%（授業観察のポイント5%，授業観察報告（4回分）20%，教材研究のポイント5%，教案・教材15%，教壇実習の振り返り5%）